1. 目的

我々の愛して止まない恵迪寮の生活とは、我々にとって何だったのか、大学の教育にとってどのような意義があったのか、大学の寮のあり方はどうあるべきなのか。寮生活を経験し、卒寮後の人生経験を重ねたものにしか出来ない人生における寮生活の意義や、そこで培われた文化についての総括を考えてみましょう。北海道大学にとってかけがいのない存在である恵迪寮の存続の危機もささやかれる今日、高等教育における学寮の意義を明らかにしておくことは火急の重要性があると考えます。

2. 背景

北海道大学における恵迪寮の現状には危機的なものがあります。建物の老朽化はもとより問題ですが、その老朽化した寮を改修あるいは建て替えようという機運がいま、大学側にはないようです。背景にはもちろん大学法人に対する国からの予算（運営費交付金）の大幅削減の影響もありますが、北海道大学側における学寮の重要性、教育的意義に対する認識の低さが予算執行に関する優先順位の低さに反映されていると思われまます。欧米の高等教育機関は学寮を人間教育の施設として重要視し、かつての日本でもそのような認識がありました。大学当局にはこのような認識に再び目覚めていただきたいと考えるものであります。

ところで、大学側、寮生側の双方に、寮の捉え方における無理解と大きな考え方の違いがあるように思えます。今に始まった事ではない、我々の時代からそうだったとはいえ、双方が相手の言うことに聞く耳を持たないという問題があります。この無理解は大多数の一般学生とマイノリティーと言っていい寮生との間にも存在します。いや、それどころか、現寮生の中にでさえ、寮を単なる安アパートとしか捉えていない者が半数近くいるという現実があります。大学側や大多数の一般学生にとって、寮生活に特別な意義を見出している寮生は時に理解不能な特異な集団であるようです。プライバシー至上主義的な現代の人間関係のありかたを全否定するような寮生の集団生活志向は、経験したことのない人々には確かに異質で特異なものでありましよう。

このような現状下で、寮生活を経験し、人生を重ねた我々が、自分の人生を俯瞰して、青年期に恵迪寮で生活したことの意味を考察することは意義あることと考えられます。それが寮を異質と捉える人々に少しでも寮を理解する助けになればと考えます。入寮を考えながらも集団生活に二の足を踏んでいる学生に寮生活がいかに人生の宝物になり得るかを示すことができれば、これもまた素晴らしいことです。そして、教育関係者に、青年期の教育に学寮の存在が果たす役割を見直すきっかけになればと願います。

3. 学寮をめぐる変化

3. 1. 1. 人格養成道場としての教育寮

戦前の旧制高校の寮は青年の人格養成の偉大な教育施設でありました。現在でも、欧米の有名教育機関の多くが学寮を人格形成の必須の教育施設ととらえ、全寮制や低学年時の全員入寮を実施しています。一方で戦後の日本では、寮は文部省的には厚生施設として貧しい学生に安価な住環境を提供する施設であるとされ、その教育的意義は顧みられることがありませんでした。したがって、戦後に建設された寮の構造はアパート的で、プライバシーへの配慮はあるものの、寮生相互の共同生活を促すようなものではありませんでした。

ところが近年、多くの大学が学寮を教育施設と位置づけ始めています。背景に、プライバシー偏重の子育てによる青年のコミュニケーション能力や協調性といった社会性の欠如が問題視されるようになって来たことがあげられます。人事担当者の中に、寮生には企業が必要とする協調性やコミュニケーション能力を備えた人材が多いという認識の広まりがあるようです。

3. 1. 2. 学寮を教育寮と位置付ける教育機関の実例

そうした中、教育寮としての学寮の理念を明確に打ち出して寮生を募集している高等教育機関が増えてきています。姫路にある自由が丘高校 (<http://jiyuugaoka.ed.jp/info/history.html>) は英国の名門イトン校に範を取る全寮制の高校ですが、寮で学ぶ13の力として次のことを挙げています：自立力、社会性、コミュニケーション力、決断力、問題解決力、自律力、論理的思考力、リーダーシップ、ディスカッション力、表現力（プレゼンテーション）、マネジメント力、創造力、忍耐力。

京都産業大学の学長・大城光正氏は「学寮の理念」を同大学のホームページ (https://www.kyoto-su.ac.jp/facilities/sd/sd_about.html) で次のように語っています：「本学の学寮は、全国各地から集ってきた学生が単に寝食を共にする生活寮ではなく、集団生活のなかで自己の人間力を磨きあげるための教育寮である。本学の「建学の精神」や「教学の理念」に謳われているように、学寮における教育とは、高邁な見識を持った人づくり教育であり、その体得の修業、実践の道場たるところが学寮であり、開学翌年の昭和41年から現在まで本学の発展を支えてきた人材育成機関の1つである。

これから学寮に入って大学生活をスタートしようと考えている諸君のなかには、寮生仲間もできていつも一緒に行動し、何の窮屈さも束縛も感じることなく自由気ままに生活できると思っている者がいるかもしれない。しかし本学の学寮にはそのような甘い考えは通用しないことを心に銘記しておくべきである。学寮には寮生として守らねばならない規則があり、決して自己中心的な行動は許されないのである。つまり、時にはプライベートのない窮屈感や、逃れようの

ない集団生活の中での束縛感を味わうこともあろう。しかし学寮での生活は、協調性や社会性、客観的な視点からの観察力を体得し、集団行動のなかでこそ養成される人間力を高める絶好の機会でもある。しばしば最近の若者の自律への危惧が指摘されているが、自律は自由奔放な単独行動からは決して会得できるものではない。全国各地から本学に集ってきた諸君が、学寮というなかに身をおき他者と切磋琢磨して競い合うことによってこそ、強い精神力、挫けない闘争力、一人で突き進む自立心が身についていくものである。

改めて諸君に伝えたい。京都産業大学の学寮は、全国各地から集う学生諸君の多様な価値観の違いを超えて、「建学の精神」に謳う崇高な理念のもとに、寮生の豊かな人間性と高い倫理観を持った人格形成が培われる修道場である。学寮での生活はグローバル社会に雄飛する原動力と豊かな創造力をもって活躍できる源となるに違いない。それゆえ、寮生が、本学の学生の中核的な存在として大いに期待する学生像を担っているのである。」

恵迪寮生活を経験した我々にとっては「我が意を得たり」と思う部分が多い言葉です。一方で、「全国各地から本学に集ってきた諸君が、学寮というなかに身をおき他者と切磋琢磨して競い合うことによってこそ、強い精神力、挫けない闘争力、一人で突き進む自立心が身についていくものである。」あたりは、最近の競争をあおる教育方針に毒されているとの感をいなめません。「全国各地から本学に集ってきた諸君が、学寮というなかに身をおき他者と協調・協力しつつ切磋琢磨し合うことによってこそ、思いやりの心、強い精神力、困難に挫けない人間力、保身に傾かず一人で突き進む自立心が身についていくものである。」とでもすれば、さらに納得といったところでしょうか。さらに、「問題解決能力」、「生涯の友」「友情」と言ったキーワードも入っていませんね。

3. 2. グローバル化教育の場としての学寮

学寮を教育施設として見直す動きのもう一つの背景は、文科省のグローバル化政策です。学生の語学力や異文化理解を推進するために、文科省は留学生と日本人学生の混住を推奨するようになりました。これに呼応して、国際学生寮を整備する大学が増えてきました。これをさらに一歩進めて、京都大学が構想した、研究者、留学生とともに生活し、切磋琢磨しつつ学習する全寮制5年一貫制大学院構想のように、国際的に活躍できる研究者養成に寮を活用するという案も検討されています。

3. 3. その他

さらに、お茶の水女子大学学生寮における寮室と共用空間の構成の研究のように、現代の若者のプライバシー志向に配慮しつつ、共同生活を通しての寮における教育効果を最大限に引き出す寮の構造（設計）に関する研究も進んでいます。

4. 恵迪寮研究会の運営方針

以上を踏まえて、過去の掘り起こしだけではなく、これからの学寮のあり方と恵迪寮の将来を考える提案型の研究でもありたいと考え、以下のような方針を提案します。

方針（案）

- (1) 学寮に関する研究論文、小論文を募集し、論文として適切なものを機関誌「恵迪」の「恵迪寮研究」コーナーに掲載、エッセイ的なものは「恵迪寮研究」の姉妹コーナー（仮称「恵迪夜話」）に掲載する。論文執筆にあたっては、読者が確認できるように、できるだけ出典を明らかにする。論文の場合は、査読のうえ、訂正や追加記述の要請をすることもある。
- (2) 「恵迪寮研究」の適切な課題について、ホームカミングデー等の機会に講演をお願いする。
- (3) 将来的に「学寮学」なる学問分野を構築し、日本学寮学会を創設し、全国の高等教育機関横断的に学寮の意義を研究し、教育政策の一助とすることを旨とする。

以下に「研究」あるいは「エッセイ」のテーマの例をあげます。投稿の際には「研究論文」であるか、「エッセイ」であるかを明記してください。

- (1) 「大学教育に於ける学寮の意義とそのあり方」
あるべき姿、厚生施設か教育寮か、青春の道場としての寮、
国際学生寮
- (2) 恵迪寮学的考察あるいはエッセイ：
恵迪寮史に載らなかった恵迪寮の歴史
恵迪寮に流れる精神
恵迪寮の文化
恵迪寮の生活の記録
恵迪寮人物列伝
寮生のライフスタイル：Gentlemen→バンカラ→？
寮生の考えて来たこと
私の寮生活 あの頃
寮の自治
寮歌解題 歴史を映す寮歌
その他
- (3) 比較学寮学的考察あるいは見聞報告：
学部寮、佐藤昌介新渡戸稲造記念寮などの地方自治体の寮、
青年寄宿舍、女子寮、私学等他大学の寮、海外大学の寮など
- (4) 寮建築、寮環境に関する研究あるいは意見
- (5) 学寮に関するその他の研究あるいは見解

以上